

周産期からの子育て支援に取り組むスタッフをつなぐ

ハロー・ファミリーカード通信

「私たちは、妊娠・出産から始まる子育てを応援します」



第1号

〈平成21年1月発行〉



変革・団結の2009年が明けました。未曾有の経済危機といわれる今日、とりわけトヨタショック震源地の愛知県で暮らす私たちには、その状況が肌で実感できる毎日です。

社会の問題は一番弱いところに最も大きなダメージを与えます。子ども虐待の状況は、児童相談所の通告受理件数が増加しつづけるなど、いまだ出口の見えない暗闇の中にあり、このような社会状況下ではさらなる悪化が懸念されます。ただ、いわゆる児童虐待防止法以降のこの10年ほどを振り返ってみると、いろいろ変わっていることに気づきます。虐待の通告義務については、抵抗感を感じずる人も少なくないものの、その責務を知らない関係者はいなくなりました。要保護児童対策地域協議会の設置やこんにちは赤ちゃん訪問事業など法に書かれたり、予算根拠があつたりする事業は粛々と実行されています。ネットワークは子ども虐待対応のキーワードですが、関係機関が連携して子どもと家族を支える経験は、在宅医療や障害を持つ子どもの療育にも生かされるようになってきました。

虐待防止に向けた私たち保健医療関係者の連携を促すための取り組みも徐々にすすんでいます。保健・医療機関連携のためのガイドラインも作られました。私どもの調査では、周産期からの子育て支援に関わりたいと望んでいる多くの保健医療スタッフがいることも明らかとなりました。ただ、現場での実際の対応の多くは、スタッフの工夫や現場裁量の積み重ねも必要です。たとえ予算や法の根拠はなくても、子どもと家族のニーズに対する現場対応の醍醐味ともいえます。周産期からの子育て支援は、子どもと家族の未来を見つめた活動です。それを支える私たちには、未来志向の現場対応が求められます。

ハロー・ファミリーカード(ファミカ)は、これまでご協力いただいた参加機関の皆様のお力添えもあり、本年度から当センターの保健事業のひとつとして展開することになりました。今のところは、一部の地域での展開ですが、今後とも継続して展開できるよう努めて参りたいと思います。今後ともご協力をお願い申し上げます。

あいち小児保健医療総合センター保健室長

山崎 嘉久

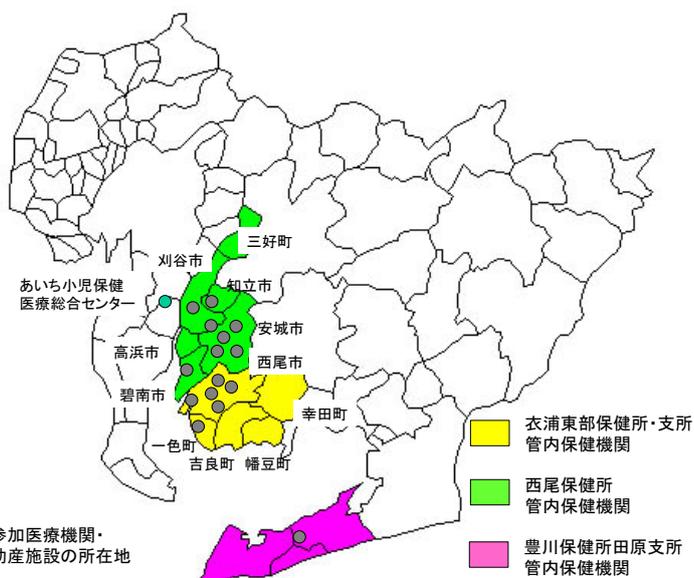


ハロー・ファミリーカードの“輪”

平成 18 年 1 月に愛知県西尾保健所管内の西尾市民病院、山田産婦人科、稲垣レディースクリニック、早川助産所、共栄助産所、マルオト助産所、保健機関として西尾市・一色町・吉良町・幡豆町・幸田町の各保健センター、西尾保健所からハロー・ファミリーカードプロジェクトはスタートしました。

平成 19 年 4 月からは、西尾保健所管内に隣接する衣浦東部保健所管内の刈谷豊田総合病院、安城更生病院、八千代病院、堀尾安城病院、岡村産婦人科、ジュン・レディースクリニック刈谷、セントレディースクリニック、碧助産所、刈谷市・碧南市・高浜市・安城市・知立市・三好町の各保健センター、衣浦東部保健所にも拡がりました。会議などを通して、このカードの効果を伝えていったところ、20 年 7 月より衣浦東部保健所管内の碧南市民病院でもプロジェクトの導入に至っています。

20 年 12 月からは、地域を少し東に移し、豊川保健所管内の厚生連渥美病院、田原市健康課、豊川保健所にプロジェクトの輪は拡がっています。



各医療機関・保健機関で特色ある利用をしています

カードの配布場面やカードの渡し方などは、各医療機関・助産施設、保健機関で工夫した取り組みがされています。出産後に気になる母親にカードを渡しながら、保健機関への連絡について同意を得ている病院や外来窓口に他のパンフレットなどと一緒に置いておき、利用したい人が自由に持ち帰ってもらっているところもあります。また、妊婦検診、母親学級、退院指導時に全員に配布している医療機関、出産後の助産師外来、乳房外来などで気になる人を選んで渡している医療機関もあります。

保健機関では、母子手帳交付時や出産後の家庭訪問時に手渡すなど、妊娠から出産、子育てへとつながる中で、保健センターにも相談できることなどを説明しています。保健所では、家族の同意を得て市の担当保健師へのケース連絡に利用しています。各機関の実状にあわせたさまざまな方法がとられています。



カードには、機関名と相談先の電話番号、相談時間などの他、実施している教室の案内や「お母さんひとりで悩まないで」など母親へのメッセージなども刷り込んでいるなど、各機関の特色を活かした利用をしています。また、担当助産師・看護師・保健師の名刺がわりに利用しているところもあります。先日、当センターを受診された方の母子手帳に某医療機関からのカードが入っており、思わずにんまり (^o^) としました。

今後も各機関でのオリジナリティを發揮しながら、カードを通して、子育てをする母に安心感を提供していきましょう。

プロジェクト導入後のスタッフの意識変化について

プロジェクト参加機関のスタッフのみなさんには、カード導入前と導入約1年後に子育て支援についての意識調査を行っています。今回、その一部を報告します。

導入前の回答者は、医療機関・助産施設 246 名、保健機関 81 名の計 327 名、導入後の回答者は医療機関・助産施設 212 名、保健機関 78 名の計 290 名です。導入前後の意識調査がまだ終わっていない、医療機関・保健機関については今回の報告には含んでいません。

「家族は子育ての不安について話しあいたいと思っている」への回答は、医療機関（助産施設含む、以下同じ）で 58.1%から 76.9%に増加しました（図1）。「ほぼ毎月以上気になるケースとの出会いがある」と感じているスタッフは医療機関では 35.3%から 49.5%へ、保健機関でも 43.2%から 52.6%に増加しました（図2）。「他の支援機関との連携の際に同意を得ている」との回答には医療機関で 43.1%から 51.4%へ、保健機関でも 38.3%から 51.3%への増加を認めました（図3）。そして、導入前・後ともに「子育て困難を抱える家族に何らかの援助ができる」と感じるスタッフは、医療機関・保健機関とも約 80%となっています。

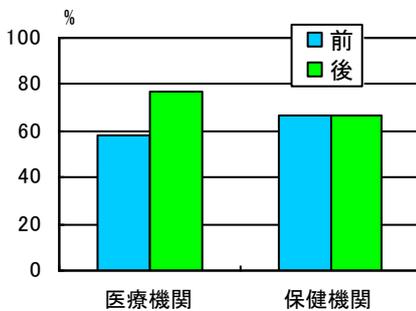


図1 不安についての話し合い

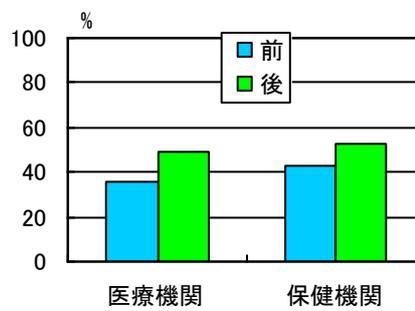


図2 気になるケースとの出会い

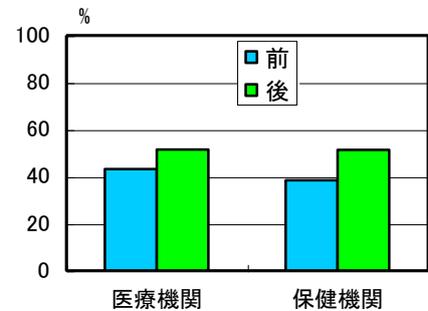


図3 連携の際の同意

西尾保健所、衣浦東部保健所主催の連絡会議などにおいて参加機関から、カード配布の効果聞いたところ、医療機関からは「困ればここに連絡すればよいという安心感があるという意見を褥婦さんからよく聞く」、「民間の病院として、これまで行政機関との連携に壁を感じていたが、同じカードを利用したり、連絡会でたびたび顔を会わせるうちに、壁がだんだんと解消され、連絡もたいへんスムーズになった」との意見がでました。また、実際にカードを受け取った母からの電話相談では「赤ちゃんがかわいくない、カードがあったから相談しようかと思って電話しました」や「入院中ノーマークだった母から、今リストカットをしました。でもカードをもらっていたから電話しました…」との体験が寄せられました。

保健機関からは、「母子手帳によくこのカードが入っており、とても普及していると感じている」、「子育て上のささいな相談が増えているような印象がある」といった意見があり、「低出生児の家庭訪問時に渡してきた。訪問から数ヵ月後に離乳食のことで困ったとき、カードに書いてあった保健師の名前を思い出して電話をしました」といった体験が語られました。

このようにこのカードは、家族が子育て上のささいなことでも相談してもよいという安心感、看護スタッフが子育て支援を行うことへの共通認識を高めるだけでなく、地域の母子に関わる機関の連携にも役立っていることが分かりました。

あなたの渡したカードもきっとどこかで役にたっていますよ…。



周産期医療現場スタッフと取り組む子育て支援に関する研修会を開催します

テーマ「周産期医療スタッフと取り組む子育て支援 ～今日からあなたも応援者(^_^)～」

座長 あいち小児保健医療総合センター保健室長 山崎 嘉久

講演「周産期における子育て支援と虐待予防—NICUにおける家族ケア」

講師 県立広島病院 新生児科 部長 福原 里恵

NICU入院に伴う長期間にわたる親子分離は、その後の親子の愛着関係に影響を与え、虐待などのリスクを高めることがわかっています。このリスクを予防するため母子間のコミュニケーションの形成を重視した家族ケアに取り組んでいる新生児科医師より、取り組みの実際について報告します。

話題提供 「助産師が地域のできる子育て支援」

話題提供者 吉良町助産師 加藤 恵美

少子化・核家族化の中で子育てをする親子が孤立しないよう出産直後から家庭訪問による支援に取り組んでいます。看護職ができる子育て支援について報告します。

話題提供「医療と保健が協働して取り組む子育て支援」

話題提供者 田原市主幹(保健師) 塩之谷 真弓

気になる親子への支援は医療と保健がネットワークをつくり、協働して取り組むことが大切です。有効な連携とは何か、ネットワークづくりの実際について報告します。

日時 平成 21 年 3 月 16 日 (月) 午後 1 時 30 分から 4 時まで

場所 あいち小児保健医療総合センター地下大会議室

対象 周産期・小児医療機関関係者、市町村保健師、保健所保健師

参加費無料
申し込みは下記まで

あいち小児保健医療総合センターのホームページをご利用ください！

- ◆周産期医療現場スタッフが取り組む子育て支援マニュアル

—周産期医療現場での親子支援に役立つ内容です—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/manual/kosodate/>

※アクセスには、ユーザー名とパスワードが必要です。

ユーザー名 : **achemec**

パスワード : **achemec** (ともに小文字で入力してください)

- ◆保健機関から医療機関への PR —愛知県内各市町村の妊娠中から乳児期の母子保健活動を掲載—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/S006/hokenkikanPR/>

- ◆妊娠・出産・育児期に支援を必要とする家庭の地域における保健医療連携システム構築ガイドライン

—医療機関と保健機関の連携を考えるうえで必見です—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/S006/web/guideyanagawa.pdf>



発行 あいち小児保健医療総合センター保健室

〒474-8710 大府市森岡町尾坂田 1 番 2 号

TEL (0562) 43-0500 FAX (0562) 43-0504

URL: <http://www.achmc.pref.aichi.jp/>